オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(96)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(96)－

１．始めに

前報(95)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も宗教曲です。

GARNET　G 40 130

モーツアルト　Vesperae de Dominica

Kirchen Sonata Nr.10 und Nr.11

Kantata “Dir, Seele des Weltalls”

Hubert Guemther 指揮 Rheinisches Sinfonie-Orchester

３．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

GARNET 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきました。

前報(95)の GARNET 盤と同様、Vesperae de Dominica は、録音が古いようで、ジャケットには一応 stereo と表示されてはいますが、ステレオフォニックな広がり感はそれほどではなく、合唱やオーケストラの分離もよくなく、全体的にナロウレンジな印象です。しかしながら、演奏自体はしっかりしており、ソリスト、特にオルガンの伴奏で歌うソプラノなどは、歌唱の確かさが伝わってきます。

Kirchen Sonata Nr.10 und Nr.11 は、録音もよく、教会ソナタとはいいながら、通常の管弦楽のように明るく、生き生きとした演奏で、オルガンも効果的に挿入されています。

Kantata “Dir, Seele des Weltalls”は、録音もよく、合唱の分離もよくなり、ソプラノの歌唱も伸び伸びとしています。

４．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの総合的な効果として、上記の盤の特徴が把握できました。

以上